

# 1 過去のエビデンスから見る

## 牛車腎気丸の展望

兵庫医科大学医学部 研究基盤教育学  
後藤 章暢

今回のワークショップのテーマである、Evidence-based Jinkyōにちなんで、高齢者に良く用いられる「腎虚」を改善する代表的な漢方製剤である牛車腎気丸を例に挙げます。すでに既知のことですが、牛車腎気丸は「牛膝」と「車前子」という生薬が八味地黄丸に加わったもので、体力が低下した疲れやすく、腰から下が冷えやすい方や、高齢者の頻尿、特に夜間頻尿をはじめ、腰痛や下肢痛、糖尿病の合併症の神経障害によるしびれなどの改善に広く使われています。この牛車腎気丸に対する私の過去のエビデンスを重視した作用機序を探求した基礎的な検討から、その成果の臨床での評価への関連を紹介させていただきます。また最近の20年間の漢方の位置づけやエビデンスを重視した大きな流れについても、牛車腎気丸の最近の有効性についての多くの基礎、臨床の研究成果から紹介させていただきます。

これまでに長年にわたって多くの講演会や大学等での講義もさせていただき、そんな中で、今では機会あるごとに若い先生方には「医療の戦略」というもののお話させてもらっています。これまで漢方治療に泌尿器科医として永らく関わり、現在も兵庫県医師会の下部組織であります兵庫県臨床漢方医会の会長も拝命しています。そのため、多くの患者さんのためにも、医療従事者の漢方治療の戦略が必要だと最近考えるようになりました。

また我々泌尿器科医が対象とする患者さんの多くは高齢者であり、急性期医療とはやや異なった考えで対応すべきところがあります。社会的な価値と個人的な価値の相違によって、医療もかなり複雑になってきています。私自身、泌尿器科医として高齢者の方々を急性期医療の社会復帰を目標にするのか、高齢者の多くが希望する生活の復帰を目標にするのか、その両方をいかに融合させていこうかと考えながら日々診療をしています。

このような背景をもとにして、牛車腎気丸に関するこれまでのエビデンスに重きを置いた多くの検討結果から見えてきたものを、私なりの解釈をもとに、戦略の重要性と今後の展望について、時間の許す範囲でワークショップとしての話題を提供する予定です。